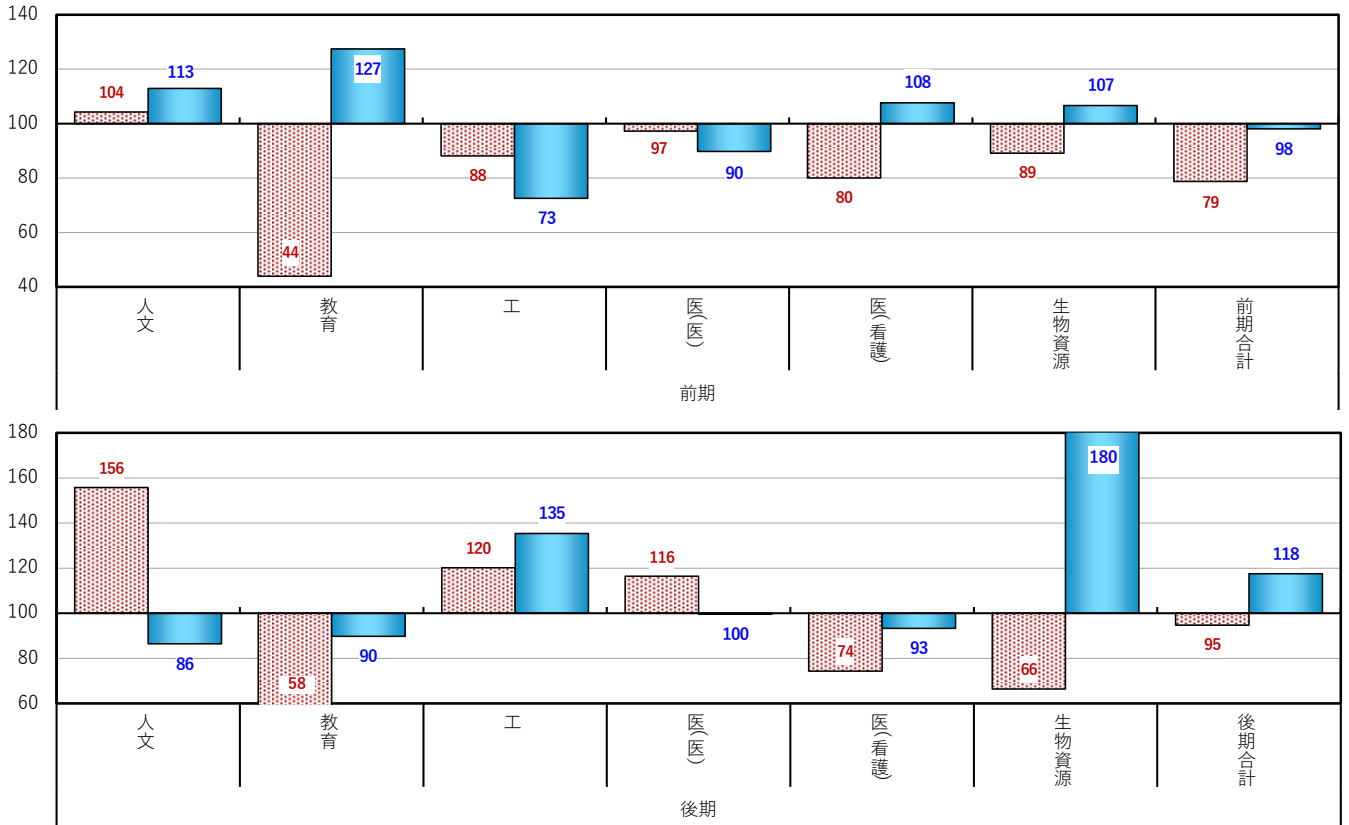


三重大：前期は微減だが2年連続減少、後期は大幅増加 前期：-46人 後期：+416人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2022年度/2021年度 ■ 2023年度/2022年度



主な入試変更点 選抜方法：後期日程廃止…教育(学校教育教員養成/数学教育-初等教育)、(学校教育教員養成/数学教育-中等教育) 第1段階選抜基準変更：医(医)<後>…10倍(通過予定人数：100人)→約15倍(通過予定人数：約150人) 個別試験：人文<後>…論+ペーパーインタビュー→論

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度の大幅減少に引続き、46人(98)の微減で2年連続減少。後期は大幅増加で志願倍率は6年ぶりに10倍を上回った。

<前期日程>

- 人文(113)**は、前年度やや増加に引き続き増加。学科別では、系統への人気の高低もあって、(法律経済)(142)は4年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は350人を上回った。一方で、(文化)(76)は前年度45%の大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(127)**は、前年度56%の大幅減少の反動で大幅増加。課程・コース・選修・専攻別(以下「募集単位別」)では、24募集単位中17募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、22募集単位で20%以上の増減があった。(学校教育教員養成/学校教育-教育学)(400)は、前年度91%の激減の反動で4倍増。志願倍率は2.1倍→8.6倍に大幅アップ。(学校教育教員養成/特別支援教育)(229)、(学校教育教員養成/美術教育-初等)(225)、(学校教育教員養成/美術教育-中等)(217)、(学校教育教員養成/国語教育-初等)(172)、(学校教育教員養成/技術・ものづくり教育-初等)(171)、(学校教育教員養成/社会科教育-中等)(171)はいずれも激増。一方で、(学校教育教員養成/理科教育-初等)(30)、(学校教育教員養成/家政教育-中等)(33)は激減。
- 工(73)**は、大幅減少で2年連続減少。学科・コース別では、(総合工/電気電子工学)(128)は2年連続大幅増加。その他の募集単位はいずれも大幅減少で、特に(総合工/情報工学)(52)、(総合工/建築学)(55)はほぼ半減。
- 医(医)(90)**は、2年連続減少。志願倍率も5.2倍→4.7倍にダウン。
- 医(看護)(108)**は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 生物資源(107)**は、やや増加だが、志願者数は2年連続400人を下回った。学科別では、(共生環境)(136)は大幅増加で3年連続増加、(生物圏生命化)(122)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(資源循環)(71)、(海洋生物資源)(78)はいずれも2年連続大幅減少。

<後期日程>

- 人文(86)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、系統への人気の高低もあって、(法律経済)(121)は3年連続大幅増加。一方で、(文化)(57)は前年度倍以上の反動で大幅減少、2021年度以降は前年度の反動による大幅増減が継続。
- 教育(90)**は、前年度は大幅減少だったが、(学校教育教員養成/数学教育-初等教育)、(学校教育教員養成/数学教育-中等教育)の募集停止もありさらに減少。しかし、募集停止の2募集単位を除くと前年度大幅減少の反動で(118)の大幅増加。募集単位別では、後期募集を行う8募集単位中6募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位ばかりなので増減が極端になりやすく、7募集単位で20%以上の増減があった。(学校教育教員養成/国語教育-初等)(263)は2.6倍以上の激増、(学校教育教員養成/保健体育教育-中等)(178)、(学校教育教員養成/国語教育-中等)(170)はいずれも激増。一方で、(学校教

育教員養成／保健体育教育－初等)(62)、(学校教育教員養成／社会科教育－初等)(66)はいずれも大幅減少。

- 工(135)**は、2年連続大幅増加で志願者数は2019年度の改組後では最多で、1,100人を上回った。学科・コース別では、(総合工／電気電子工学)(396)、(総合工／建築学)(213)はいずれも前年度大幅減少の反動による激増。一方で、(総合工／情報工学)(51)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減、(総合工／機械工学)(71)は前年度2.5倍以上の激増の反動で大幅減少。
- 医(医)(100)**は、第1段階選抜の基準が緩和されたこともあって、2年連続大幅増加の反動はなく前年度並。
- 医(看護)(93)**は、やや減少で2年連続減少。
- 生物資源(180)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、4学科全てで大幅増加。特に、(共生環境)(226)は2年連続大幅減少の反動で2.2倍以上の激増。